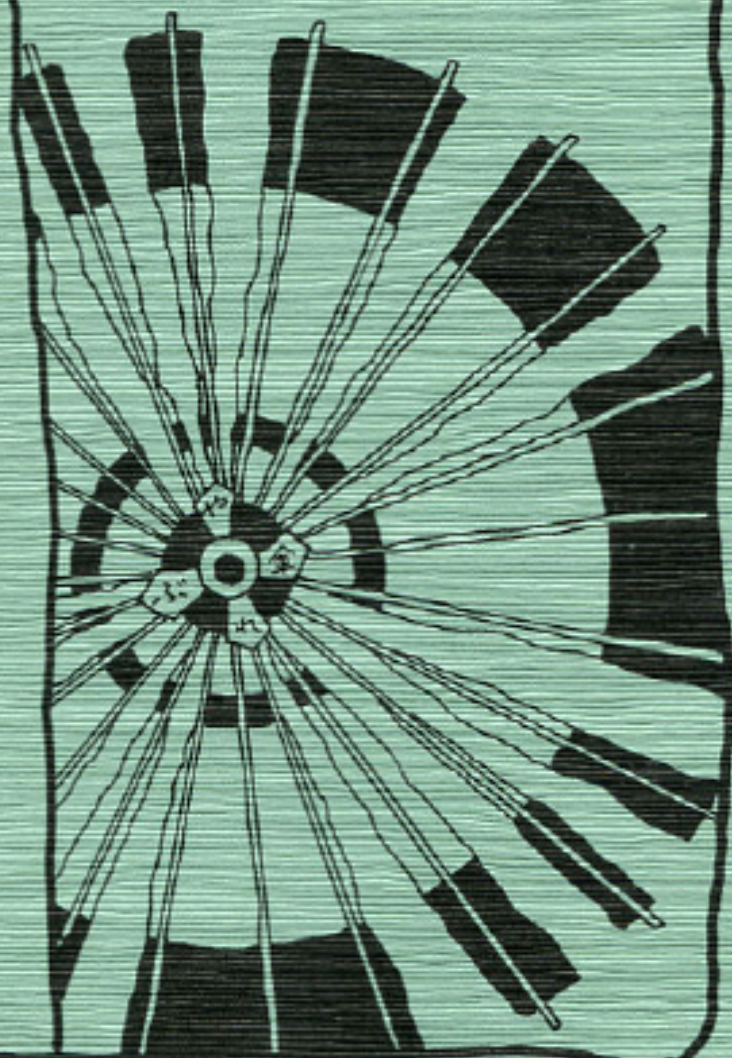


# やぶれ傘



五十八号  
二〇二一年二月

雲の無くいよいよ裸木となれり	根橋宏次
キヤタピラの跡のギザギザ小六月	大島英昭
ドラム缶から火の手が上がる焚火かな	きくちきみえ
みちのくは雪と聞く夜の菊脛	廣瀬雅男
廃船の甲板に草紅葉かな	瀬島酒望
庭の木の思はぬところ鴟の賛	白石正躬
川またぐ水道管や泡立草	丑久保勲
胸近く来て引返す雪ぼたる	秋葉貞子
霜柱つぶるる音を踏みにけり	藤井美晴
おほぜいの炬燵へ恐る恐る入る	安藤久美子
干菜湯は大根の葉のほひかな	天野美登里
山の端に鳶の輪をかく安房の冬	國保八江
皿が皿打つ音きこえ秋の宿	渡邊孝彦
冬の月最終バスの固き椅子	久世孝雄
秋深し円空佛の傾ぎゐて	有賀昌子

抄 集 句 選 夫 紀 崎 大 傘 ぶ れ や

小春日や鯨干さるる安房の國	小池一司
カツポレを踊る集團神の留守	齋藤朋子
落葉掃くことより始むビル工事	高橋均
糶田や細に父子の小鮒釣り	時田義勝
斑鳩の桜紅葉や通り雨	都丸スミ代
刑死者を弔ふ墓碑に冬の菊	中村則夫
小春日やはち切れさうな飛行船	橋本美代
足裏に木の葉の弾む日和かな	松村光典
新米の炊けしにほひの階下より	松本善一
朝市のざわめき近し冬の宿	湯本実
银杏落葉踏みて防犯パトロール	秋山信行
しなやかに冬日束ねて那智の滝	泉一九
友の訃を友に伝ふる日短	岩藤礼子
秋うらら子らの絵並ぶ商店街	岡田香緒里
花形の紙片貼られて白障子	小川滋

海  
鼠

大崎  
紀夫

雲移る雲間の秋のあをもまた  
行く秋の畑の道を田の道へ  
鯊釣るや夕風のコゑ舟べりに  
蜂の子の炒りしをつまむ夜の信濃  
波の秀ほの夕日散らせり秋土用

ねずみもちの実のもやもやと日に当たる

閻王の齒の欠けあたる竜の玉

拳玉の穴に蠟塗る夜長かな

柿すだれ八ヶ岳やに雲なき朝のきて

嵯峨野ゆく帽子に時雨きたりけり

山の端に星生まれけりなめこ汁

海鼠掌に重し沖まで晴れわたり

雪ぼたる

秋葉貞子

この景色いつか見た道日の短か  
胸近く来て引返す雪ぼたる  
ミシンの目飛びぐせつきて年の暮  
冬すみれ風にも揺れて秩父線  
新海苔の香る小包まだとかず  
花石露や伯母百歳の葬簡素  
凧の中さよならの声もがれゆき  
のびのびになりし返信十二月  
予後の身のつつがなく過ぎ寒の入り  
柚子風呂を出てしなやかに文字を書く

霜　　柱

藤井美晴

からまつ葉の降る小春日和かな  
湯煙のうしろ白根の冬茜  
人影の立ち上がりける紙障子  
霜柱つぶる音を踏みにけり  
冬蝶の地に下りて羽根息づける  
落ち葉浮く昨日の雨の水たまり  
暮れ早き小笹の土手を戻るかな  
散り果てて明るき櫛並木かな  
坂道に冬の日当たる一葉忌  
冬枝の秀に秀に雨の滴かな

炬燵

安藤久美子

冬の夜読みさしをまた葉より  
時雨より生るる水輪のつぎつぎと  
けものみち落葉の嵩の五寸ほど  
星仰ぐ外湯に枯葉ごつそりと  
おほぜいの炬燵へ恐る恐る入る  
神杉のふたもと雪の舞ふなかに  
時雨きて味噌蒟蒻を売る茶店  
滝見の湯雪はしきりと湯煙に  
数へ日や失せ物神籤どほり出づ  
大晦日晴れて建築中の塔

干菜湯

天野美登里

うどん屋の障子に午後の日差しかな  
冬草の萌ゆる堤のひとところ  
柚風呂の湯船明るくなりけり  
競馬場の砂のくろぐる年の暮  
干菜湯は大根の葉のにほひかな  
解体の柱をくべる焼き芋屋  
冬ぬくし工事現場の猫車  
鬼おこぜ生簀の底にゐたりけり  
揚げ玉のふやけ鍋焼うどんかな  
ボロ市の翠玉の玉ひかりけり



安房の冬

國保八江

境内に犬の寝そべる七五三  
葱を膝に小さく座るバスの席  
大根の抜きたるままを呉れにけり  
冬晴れの海辺に並ぶ海女の墓  
山の端に鳶の輪をかく安房の冬  
遠く海小春の坂を下りゆく  
猿山の高みに子猿冬日和  
うすうすと枝くろぐろと冬桜  
病院の窓一面の冬田かな  
輪飾りの垂れたる藁を揺らす風

秋の宿

渡邊孝彦

皿が皿打つ音きこえ秋の宿  
砂利道の繁き足音菊花展  
水入りの水笛売られ酉の市  
城跡に向かふ山道石露の花  
相模湾見下ろす路のお茶の花  
向拝の紙垂新しき七五三  
垣の穴より大根を頂戴す  
坂道の枯れ木並木や空に風  
石露の花松本楼の庭先に  
街騒や空の真中に冬の月

冬の月

久世孝雄

外苑の銀杏黄葉を胸に挿す  
駅を出て身震ひひとつ十二月  
冬の月最終バスの固き椅子  
餌をあさる冬田の鷺の歩みかな  
一葉 忌 観 音 裏 の 桜 鍋  
湧水の流れ行くさき冬椿  
眉毛にも白きもの増ゆ日の短か  
除夜の湯につるりと顔を拭ひけり  
秒針の刻む早さよ去年今年  
よちよちとうさぎの耳の冬帽子

円空佛

有賀昌子

休み茶屋に水にほひけり鳥渡る  
竹筧にぼつち盛りする走り蕎麦  
露の玉手水の杓をころがれり  
手水鉢に木洩れ日揺るる秋さやか  
折からの雨に打たれて墓洗ふ  
濠わりにかかると木橋や鱗雲  
猫戻りきて朝露を払ひけり  
風花の草津穴守稲荷かな  
末枯や「西の河原」に石を踏む  
秋深し円空佛の傾ぎゐて

雨上がりに空いつぱいのうろこ雲  
 校庭に歓声ひびく文化の日  
 柿つるす物干し台に夕陽かげ  
 磯風の枕辺すぎる秋の朝  
 冬日向向かひの土手にありにけり  
 校庭に集ふぜツケン息白し  
 リード引く手のじんじんと冬の朝

神山市実

秋夕焼鳴門海峡渡りけり  
 瀬戸内海眼下に園の菊薫る  
 瀬戸に雲映して島の秋深し  
 里山に雲降り来る茸飯  
 稜線のくつきり見える冬隣  
 下仁田の葱を土産に提げて来る  
 買ひ物はメモを手にして年用意

上林富子

## ◇ 3～4月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連絡先
3月	1日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	2日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	23日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	26日(土)	AM10:00	楽 天 会	戸田市中央公民館	廣 瀬 雅 男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
4月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	17日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	水上バス・浜離宮	丑久保 勲
	23日(土)	AM10:00	楽 天 会	戸田市中央公民館	廣 瀬 雅 男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	27日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

4月17日(日)の吟行。集合は10時。メトロ地下鉄浅草駅吾妻橋方面改札口。

吟行地：水上バスで浜離宮へ。句会場：森下文化センター・第3会議室。

都営地下鉄大江戸線で汐留駅から森下駅へ移動。徒歩7分。

- ◎ 連絡先
- |         |                |         |                |
|---------|----------------|---------|----------------|
| 瀬 島 孟   | ☎ 048-862-2757 | 藤 井 美 晴 | ☎ 0422-55-2733 |
| 大 島 英 昭 | ☎ 048-592-5041 | WEP編集室  | ☎ 03-5368-1870 |
| 廣 瀬 雅 男 | ☎ 048-443-7522 | 浦和コミセン  | ☎ 048-887-6565 |
| 丑久保 勲   | ☎ 048-853-3856 | WEP俳句教室 | WEP編集室へ        |